第１４１回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２８年１０月１２日提出）

１．題　目：「おおかた仕上がっている一年生へのキャリア教育
　　― 学習と成長パラダイムも考慮して ―」

２．日　時：　平成２８年 9月２０日（火）　１６：００　～　１７：３０

３．場　所：長崎大学　文教キャンパス　グローバル教育・学生支援棟
　　文教スカイホール（４階）

４．主　催：就職委員会（キャリア支援センター）

５．対　象：全教職員

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに〇を記入すること）
［ 〇　］(1)　教員の教育活動に関するもの
［ 〇　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
［　　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）

今回、キャリア教育において先進的な取り組みを行っている京都大学より講師を招き、これまでのキャリア教育支援の内容を点検しつつ、今後のキャリア教育のあり方を学び、キャリア支援センターをはじめ各部局等におけるキャリア教育の改善等に繋げることを目的とする。当日は、講師に発達の観点から見て大学１年生がどういう時期にあたるか、キャリア意識が単に就職や人生の問題にとどまらず、日々の学習や成長の問題にまで密接に関連していること等について解説いただく。

８．プログラム構成［題目・担当講師］（当日使用した資料等を添付すること）

16：05　～　16：10　開会挨拶　堀内　伊吹副学長（学生担当）
16：10　～　17：20　講　　演「おおかた仕上がっている一年生へのキャリア教育」
－ 学習と成長パラダイムも考慮して －
講　　師　京都大学高等教育研究開発推進センター
（教育アセスメント室長）　　溝上　慎一　教授
17：20　～　17：30　質疑応答

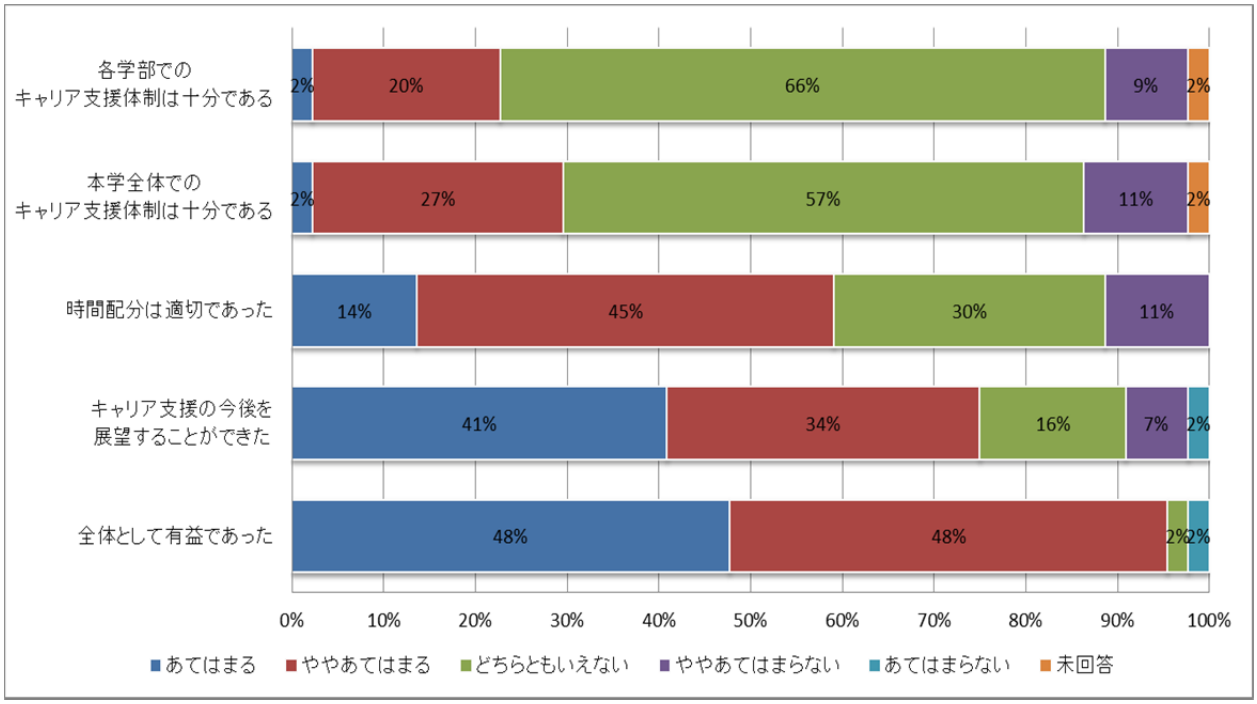
９．参加者：７０名

（内訳）

所属	集計	所属	集計
副学長(学生担当)	1	医歯薬総合研究科	2
多文化社会学部	1	地域教育連携支援センター	3
教育学部	3	ダイバーシティ推進センター	1
薬学部	3	大学教育イノベーションセンター	3
工学研究科	2	文教地区事務部学務課	1
経済学部	1	経済学部支援課	1
水産学部	1	地方創生推進本部事務室	2
環境科学部	4	キャリア支援センター	1
原爆後障害医療研究所	1	学生支援部	21
病院　精神科	1	学生	9
病院　薬剤部	1	外部(他大学他)	7
合　計　70名（受講証発行対象者:55 名（学外:6 名　学生:9 名を除く））			

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価（アンケートの集計結果を記述する）



<u>以下自由記載欄のコメント</u>

・1.5 時間では足りませんでした。もっと聞きたかったです。将来への見通しが GPA にかかわるのは非常に有益なデータでした。高大連携はキャリア教育の面でも重要という話はこれからの大学にとっての課題だと思いました。従来の「キャリア教育」の枠を外して教える必要があると思いました。その点で本学はまだまだだろう（逆に言えば伸びしろがある）と思います。

・キャリア教育の重要性や意義をあらためて実感することができました。大学教育においてもこれほど重要であれば、大学としてさらに計画的に取り組む必要性を感じました。

・キャリア教育を学生の実態に即し多様にとらえる機会となりました。ありがとうございました。

・大学生活タイプ、二つのライフと資料・能力のクロス集計は大変興味深かった。学生には、目標のために今自分にできることは何か、それをやっていくことが大切なのではないかということを問いかけていきたいと思いました。

・キャリア教育を見直す良い機会となった

・娘が高校２年生なので個人的にも大変勉強になりました。

・学生です。二つのライフの何のタイプかしら・・？なんて思いながら聞いていました。私も高校生の頃に描いたことが原点で今将来に向けて頑張ってるようです。

・キャリアデザインの重要性がわかりました

・今まで自分のキャリア意識がどうであったのか振り返ることができました。
また、これからどうキャリアに対して見通しを持ったらいいのか理解できました。
・講演タイトルと内容が一致しているとは思えなかった。
・アクティブラーイングの重要性を再認識した。
・参加者が少なかったが、日頃先生方はこの〇〇をされているんでしょうか？心配になりました。
・統計学的専門用語が難しかったが、概要は概ね理解できた
・キャリア教育は大学生の将来にとって非常に大事な科目だと思いました。溝上先生が貴重な資料を準備してくださったので、もっと聞きたくなりました。
・キャリア教育について、大学生活後半（３年から）考えていては遅い！むしろ大学入学前からということの大切さについていろいろなデータを基に伝えて下さりよくわかりました。（実感しました）
ありがとうございます。
・今回は教育や事務員と言った”学生を支える立場の方”向けの講演会だが、2 部構成にして、後半を学生向けの内容に帰るとよいのではないかと思った。学生は、グローバル人材プログラムに参加している学生のみ当日メールで知らされたので、通知が遅いような印象を受けました。普段の学生生活が将来にどうつながるのかと言うのは、正直うなずける話ですし、管理された高校生活から自由な大学生活へと変わる際、大学ならではの個人の資質・能力を身につける機会があれば、学生も成長できるのではないかと思いました。
・後半をもう少し詳しく聞きたかったです。
・私も 10 年くらい前から 1 年生から始めるキャリア教育の必要性をあげてきましたが、現実的に動いてくれる教職員は少なかった。今回のこの講演をぜひ皆に聞かせたかった。
・とても勉強になりました。
・また溝上先生の御講義の内容をもう少し具体的な　にお聞きできればと思います。
・自分らしく生きる方法について実施してもらいたい
・キャリア教育の成功例など（学生ごと）を具体的な説明紹介があるとイメージ理解しやすい。
・どうやって自分はキャリア形成（デザイン）してきたか。とかの事例を学生に聞かせる機会があればと思いました。
・目標を持たない学生に対して、キャリアの側面から彼らを「変える」方法例（アクティブラーニングだけでなく）も具体的にお伺いしたい。
・1 年生の前期に実施すべきとあらためて思いました
・本学においては「キャリア教育と学習をつなげる」という観点でプログラムを形成しているか疑問が残る。モジュール、PROG、ポートフォリオ等々新しく始めた各取組が、それぞれ宙に浮いたように感じる。結果「キャリア教育」が後付けになってしまったのは否めないので、これからが勝負だと思う。
・ありがとうございました
・教育学部は教員になることを目標として入学しているはずなのに、卒業するときは教員以外の職に就くことになっている人が半数近くいます。教育実習の有り方や付属学校との連携などももっと学生の声を聴いて、学部全体で教職員を育てる夢に向かって頑張れる環境作りを行ってほしいと思います。

・キャリア教育の中身が見えてこなかった。
・周りをみていると、大１～３まではただ何となく日々を過ごして・・・。就活になって急に自分をみつめる！自分探し！PR 探し！（でもそれって、大学４年間で培ってきた資質能力じゃなくない？”取り急ぎまとめました！”というイメージがするのです）に励む日々・・と言う学生が多いようです。すべては自分次第と言われればそれまでですが・・・。今回のモジュール「キャリア教育」が学生たちにとってそれを打開するものになればよいなと思う次第です。
・社会の流れに文部科学省もがんばって遅れることのないようされていると思う。教員一人一人が社会の流れを考えて子どもに必要なことを考えていく必要もあるように思う。
・キャリア教育はなんでしょうか。もっと深く考えさせられました。キャリア教育の重要さについて、もっと広げて知ってほしいです。
・学生のインターンシップやボランティアの参加に携わる仕事をしていて、意欲や意識が高い学生と全く関心がない学生の差が大きいことに気づきます。(参加する学生は、何度もボランティアに参加して頑張っているなど）どの差がなんなのか、ということについて１つは、自分のキャリアについてきちんと向き合っているのか、真剣に考えているのかということが原因に考えられることが分かりました。今後の学生への支援のポイントを教えていただきありがとうございました。
・就職活動のとき、キャリア支援をしていただいて、本当に助かりました。誰かに相談してアドバイスをもらうことは非常に大切なことだと思います。
・学生ごとに”キャリア教育”の結果、どんな学生を育成できたのか？など概念や制度設計など抽象的な話では短時間の講演で学ぶものは少ないと思います。
・二極化が進行して、溝上先生も　　「落ちこぼれ」グループも増えているかもと思います。そのレベルアップのためにもぜひ一年生（前期）時に集中してやったがいいと私も思いました。
・「生きていく」ことの難しさや楽しさを教えることで、「学習に対する意欲」を高めたく、これまで取り組んできたつもりですが、「キャリア」と「学習」を結びつけた具体的な教授法のディスカッションの機会も設けていただきたい。

（２） 総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

参加者のアンケートの集計結果から、「全体として有益であった」、「キャリア支援の今後を展望することができた」という問に対して、「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせるとそれぞれ、96％と 75％であったことから、講演内容については非常に評価が高かったといえる。

また、「本学全体でのキャリア支援体制は十分である」、「各学部でのキャリア支援体制は十分である」という問に対して、「あてはまる」と「ややあてはまる」をあわせて、それぞれ 29％と 22％であり、各学部と連携を深めながらキャリア支援センターとしての機能を強化していく必要があると分析できる。

今回の講演会は、「貴重な資料だった」「時間が足りない」「もっと聞きたかった」と

非常に有益な内容であった自由記述意見も多く見られた。また、キャリア教育の必要性は理解しつつも、「キャリア」と「学習」を結びつけた具体的な実践事例を求める意見も多く見られた。

キャリア教育は、キャリア支援センターだけで実施していくものではなく、大学全体で取り組まなければならない課題であることを受講者間では共有することができたが、教員の参加が少なかったことから引き続き、キャリア支援に対する教職員の意識改革も必要であると総括できる。

１１．実施代表者の連絡先

部　局：就職委員会
職　名：委員長（学生担当副学長）　　氏　名：堀内　伊吹
e-mail：horiuchi@nagasaki-u.ac.jp　　内　線：２１７８

１２．申請者の連絡先

部　局：学生支援課キャリア支援班
職　名：班長　　氏　名：橋口　洋二
e-mail：yoji@nagasaki-u.ac.jp　　内　線：２１０１